広告　企画・制作／読売新聞社広告局

清風学園 スペシャル対談 vol.2

話し合いの時代

仏教に基づく人格教育を実践する
清風中学校・高等学校の平岡宏一校長と、
環境問題に取り組む登山家の野口健さんが対談。
次代を担う人材育成について語り合いました。

野口 健
登山家

1973年米ボストン生まれ。植村直己氏の著書に感銘を受けて高校時代に登山を始める。亜細亜大学時代の99年に3度目の挑戦でエベレスト登頂に成功。当時の世界7大陸最高峰登頂の最年少記録を25歳で樹立。エベレストや富士山での清掃登山や、「野口健環境学校」を主宰、人材育成にも取り組んでいる。

平岡 宏一
清風中学校・高等学校校長

1961年大阪市生まれ。早稲田大学第一文学部卒。高野山大学大学院博士課程単位取得（密教学専攻）。2年間、インドに修学してチベット仏教を学んだ。清風中学校・高等学校で社会科教諭、副校長を経て、2011年から現職。チベット仏教に関する著書多数。

今、どんな人材が求められているのでしょうか

平岡　話し合いで問題を解決できる人です。今年、チベットのダライ・ラマ法王に来校いただき、全生徒に講話をしていただきました。その最後に生徒がこんな質問をしました。「信仰心が深く、敬虔（けいけん）な仏教徒であるチベット人が、なぜこんなに不幸なのでしょうか」と。それに対して法王さまは「仏教的に言えば、民族全体が抱える業ということになる。直接的な原因は、信仰していれば幸せになれると思い、周囲の国々との対話をおろそかにしたからだ」とおっしゃいました。日本でも領土に関する隣国との関係で、ナショナリズムに傾いてゆく危険がある。だからこそ、話し合いが大切なのです。相手と同じ目線で話し合う、相手の考えていることを想像する力が必要です。

野口　ある活動に人を巻き込む時も、自分の考えをどう伝えるかが、最も難しいですね。例えば、富士山に大量のゴミが捨てられていて、それを一部の人間だけではとても処理できない。いかに多くの人や行政を巻き込むかが課題になる。そのために、映像を使ったりして工夫していますが、いまでも試行錯誤しています。高校卒業後に登山のスポンサー探しに取り組みました。兄から借りたワープロで企画書を書くのですが、そこには私と企業が共通の夢を持てる「ストーリー」を描きました。

平岡　本校では論理的思考力を養うために、読書論文指導を行うなど国語教育に力を入れています。野口さんはとても多くの経験をされて、その経験をとても上手にお伝えになりますね。こういう能力こそが、これからの時代に必要なのです。こういう能力があるからこそ、多くの人に評価され、活動をしておられるのでしょう。

人に何かを伝えることの大切さとは

野口　「エベレストに行きたい」と思うことと、「実際に行く」こととは、まったく違います。山岳部の学生に聞けば、「行きたい」と言う。そこから、費用1000万円をどう集めるか。大学の山岳部時代に、冒険に憧れる入部希望の1年生が来ると、必ず「親は入部を納得しているか」と聞きました。登山は危険ですからね。「親は関係ありません」と言う1年生もいました。しかし、登山は社会の多くの人に共感してもらえて、初めて可能になる。自分の思いを親に伝えて説得できない人間が、他人を説得などできないと、いつも話しました。

平岡　最も大切なのはパッション（情熱）です。パッションを持って、「本物」を目指そうという努力をすることです。日本人はすぐに、ノウハウを学び、それだけに頼りたがる。どうやったら簡単にうまくできるかと。とにかく、課題や目標にぶち当たって、力いっぱい努力して、その中で様々なことを学んでゆく姿勢が求められています。ノウハウも学んで能力を高めないと人さまのお役には立てないので、それ自体は大切なのですが、それ以上に「志」を持つことが重要なのです。

学校法人　清風学園　〒543-0031　大阪市天王寺区石ヶ辻町12-16　TEL 06-6771-5757